中学校武道必修 分県中津市に お 化に向けた取組 ける

年度武道必修化に向けて取組を始めた。武道を安全かつ円滑に実施できるように具体的 れている。 な内容等を検討した。 中津市教育委員会は、平成21年度より「中津市武道検討委員会」を立ち上げ、平成24 現在各中学校において剣道・柔道・相撲の各種武道の授業が行わ



大分県立歴史博物館所蔵「黒田如水画像

澤諭吉、小幡英之助、広池千丸があります。おばたえいのます。などださいます。なるにけるな幕末から明治維新にかけては、 兵衛・如水)が入城し中津城を築 、 注 じょうじ 日は約8万5000人であり、口は約8万5000人であり、 き、 し福岡県と県境を接している。 中津市は、大分県の北部に位置 町づくりの基盤をつくった。 九〈、 官貨機

として有名で、勝海舟はその門弟いる。また、島田虎之助は剣術家をはじめ、多くの人材を輩出して の一人である。

校規模の大小はあるが、約240 そのうち中学校は10校である。 天皇のご臨幸に始まる) 念相撲大会(皇太子であった昭和 がさかんな地域でもあり、 91回目を迎える。 0人の生徒が在籍している。 本市には小中学校が33校あり、 は今年で 台覧記 学

2013. 11 月刊「武道」

教育委員会としての方向性

2

取り組み方などを工夫できるよう どを理解し、課題に応じた運動の 礼に代表される伝統的な考え方な 健康や安全に気を配るとともに、 であると捉えている。 にすることが、武道教育のねらい 方を守ることなどに意欲を持ち、 教委としても、伝統的な行動の仕 武道必修化の背景を踏まえ、市

を通じて、 ることにした。 学校の現状に応じた種目を実施す 者、安全衛生面を考慮しながら、 そこで、 施設面、 中津市武道検討委員会 用具面、指導

ことのできる授業数を確保するこ 学習指導要領では明確にされてお ととされている。中津市として らず、各種目の特性を味わわせる 武道の実施時間数については、 年間12時間程度が適切であ 連続して指導することが望ま また、習得することを考える

武道授業

実施することにした。 しいと考え、1~2か月連続して

①施設面について

校は、 場での実施が必要である。 た。 最大限考慮して実施することにし 等を考慮しながら、既存の施設を どの安全面を考えると、専用の道 柔道は武道場がない場合、 備、畳のズレによる手足の怪我な 武道場(隣接も含む)のある学 10校中4校である。 安全性 畳の準 特に、

中、 国中)となっている。 今津中)、 中津中・東中津中・耶馬溪中・山 は、柔道2校(三光中・本耶馬溪 実施種目及び実施校について 相撲3校(豊陽中·城北中· 剣道 5 校(緑ヶ丘中・

撲マット使用) 剣道は体育館、相撲は体育館(相 及び土俵 (土俵の

> とし、特に柔道については、安全 る学校で実施することにした。 面の関係から敷地内に武道場のあ ある学校がある)での実施を基本

②用具面等について

本とし、 保管している。 校40本)、本廻 は柔道衣 (1学年分) を市費で購 市費で購入し、 対応が適切であると考えた。柔道 衛生面を考慮すると、リースでの を使用している。費用面、安全面、 20組)をリースで用意し、安全性 び防具一式(2校で1セットを基 撲は相撲マット、 の高いカーボン製の竹刀や面など 剣道の防具については、 使用後は各学校で保管、 1セット竹刀42本、 使用後は各学校で (各学校20本)を 簡易廻し(各学 竹刀及 防具 相

③安全面・衛生面について

は、 ケガの未然防止などについて 事前及び授業中の安全指導を

> 体育教員を中心とした指導者講習 徹底して行うことにした。特に基 員の安全指導の向上に努めている 本動作(柔道では受け身など)に ところである。 会も県主催で行われており、 ついては丁寧に指導する。 また、 教職

ており、 与するようにしており、 期している。柔道衣は、個人に貸 ら「まわし」を着用するようにし ている。相撲では、 に直接触れることがないようにし を着用するようにしており、防具 は他者のものを使用することはな 。剣道では、薄手の頭巾や手袋 また、衛生面については万全を 直接肌に触れることはな 体操服の上 基本的に か

④指導者について

を得た授業を行うことが望ましい と考えた。 ことになるが、 基本的には体育教員が指導する また、 外部指導者の協力 安全面を考えて2 体育教員を配置

津市教育委員会

○指導する生徒数が多くなるた

験をさせることができた。

十分な成果は現れてい

な

法について生徒たちに新鮮な体 で、あいさつの仕方や畳での作

怪我のないように安全確認

さらに必要である。

《課題》

験させることができている。 ど)を重んじる武道を生徒に経

○柔道部や地域の少年柔道教室で

我のないようにしている。)体重や身長差などを考慮し、

怪

○武道のイメージから脱却させ、

《成果》

別した指導を行っている。

の経験者を把握し、

初心者と区

対人競技の楽しさや深さを体験

○礼法についての学習をすること

させるための授業内容の工夫が

徒が多かった。

が楽しかった」と答える女子生 た。アンケート結果から「授業

は実施していない。

みを中心に行っており、

乱取り 打ち込

○作法や礼儀(相手を敬う心な

徹底して行うようにしている。受

事前及び授業中の安全指導を 事故などの未然防止のため できない学校ついては、免許外の

校には柔道専門の体育教員を配置

特に柔道については、実施校2

盛んな校区である。 撲大会が開催されるなど、 今津中)は、地域の行事として相 いる。相撲3校(豊陽中・城北中・ るなど施設面においては充実して 配置している。また、武道場があ 2校とも柔道が専門の体育教員を 部指導者を派遣している。柔道2 置が1校である。未配置校へは外 東中津中・耶馬溪中・ 剣道5校 そこで、各学校へのアンケ (三光中・本耶馬渓中) には、 体育教員配置が4校、 (緑ヶ丘中・ 山国中)の 未配

ことにする。 課題について、 調査をもとに、授業の様子、成果、 種目別に説明する

)慣れない種目にもかかわらず、 配慮している点など)》 と展開する。

剣 道

《授業の様子(授業展開の工夫・)竹刀の変遷や礼法の仕方等を簡 意欲的に授業に参加できてい 潔に指導・説明し、実技指導へ





の基本的な指導を実施している。 するとともに、学年に応じた「技」 け身などの基本動作を丁寧に指導



剣道授業の様子

柔道授業の様子

○剣道に興味を持つ生徒が増え

る。

投げ技については、

寝技を中心に授業を進めてい ている。また、礼法や受け身、 ○正座をする時に、張り詰めた心

)授業のはじめに準備体操と補強

運動を十分に実施するようにし

《授業の様子(授業展開の工夫・

配慮している点など)》

対応している。

は、事前の綿密な打合せを行い)外部指導者を活用している場合 慮した指導を心がけている。

【柔道】

防具を着用していない時の素振

を徹底する。

面に竹刀が当たらないように配 りや2人組の面打ちの際に、顔

)防具の簡易化(防具を着けるの

に時間がかかる)。

聞く姿勢や態度に変化が見られ 地良い緊張感が生まれ、説明を















121 120 月刊「武道」 2013. 11 2013. 11 月刊「武道」

る必要がある。

声を聴いた。 体育の授業時に役立ったという が、卒業した生徒で高校での

れて)や補強運動(腕立て、腹

転、後転を中心に開脚などを入

122

○怪我のないように授業展開をす ○専門性の高い分野であり、一斉 ではないか。 の点が問題になってくる。 は、危険性、指導力、指導環境 ることが大切である。 にさせること自体無理があるの 柔道で

○柔道専門の教員が指導手引書を ○柔道に限らず、武道は生徒にと 感じさせるかが課題である。 り、他のスポーツと異質な面も って日常生活から遠いものであ いかに親しませ、身近に

極的に行う必要がある。 作成することや、研修会等を積

《授業の様子 配慮している点など)》 (授業展開の工夫・

○女子はまわしを巻いた経験がな ○女子の対人的技能については、)蹲踞、 が見られたが、二人一組のペア く、最初は恥ずかしさと戸惑い を中心に試合をした。 合った状態から横に倒れる練習 まず、膝をついて二人組で組み 動作が正しく身につくよう、 を入念に行う。 筋、背筋など)などの準備体操 からはじめ、その後、押し相撲 間をかけて繰り返した。 きないようにメニューを変えて 調体、受け身などの基本 四股、腰割り、 また、生徒が飽

○日常生活の中で経験することの 《成果》 和感が軽減された。 を中心に学習を進めることで違 股、すり足)に対して、ゲー ない難しい基本動作(蹲踞、 自分の姿を確認させた。 でまわしを着け合い、お互い 四 i= 4

相撲授業の様子







時





指導 指導 地

②指導者について

ことが必要であると考える。その 部指導者を質・量ともに確保する 域や関係団体との連携により、外 導者派遣を考えていたが、現在、 要である。全ての学校への外部指 者の指導技術レベルにより、授業 バンク構築に向けて検討したい。 ために、外部指導者のための人材 状況である。市教委としては、 2校(剣道・柔道)に2名配置の の均一化をめざすことにおいて必 育教員に対する指導力向上のため 内容及び展開が異なってくる。体 の各種指導者研修の充実が、 指導方法とも関連するが、

> 校の状況を勘案しながら、 生徒たちに多くの武道種目を体験 サイクルでの種目変更も検討した ある。しかし、施設面を含め各学 同一種目を実施することが大切で してもらいたいが、同一学年にお を変えることも必要ではないかと いては、複数年にわたり継続して いう学校現場からの意見もある。 数年 \mathcal{O}

4その他

○施設面での充実や用具類の適切 ○女子生徒への武道に対する興 な補充及び改善。 味・関心を持たせる指導法工夫。

○安全面での配慮

育の充実に努めていきたい 的な対応・対策及びソフト がら、学校や地域とともに武道教 ド面の整備・拡充も視野に入れな 今後の課題は多く、 ・ ハ 長期

○怪我防止のため、ストレッチン グ (一人、二人組)、回転運動 (前

○生徒の技能の習熟度を考慮しな ○武道以外の体育の授業で、 り、生徒の相撲への興味・関心 がら、授業を進めることによ 業・終業時のあいさつが礼儀正 しくできるようになった。 始

○安全対策として、

相撲用マット

気が広まった。

○男女で相撲学習に取り組んだこ とによって、相撲に親しむ雰囲

など。

できた。

○基本動作がしづらい。

バタバタ

足での動作や四股が踏みづらい

を高め、技能向上を図ることが

○足(親指の皮がむける、足首を

痛める)に負担をかける。

操用マットを敷く必要がある。

の下に厚みを増すために器械体

おわりに

整理し、まとめとしたい。 武道の授業実施における課題を

①指導方法について

喜びを味わい、 度が増すことになり、 られた時間、 け、攻防を展開するようになって は、技を高め勝敗を競う楽しさや 各種目とも、学習指導要領で しかし、攻防となると危険 期間でこのレベルま 得意技を身に付 しかも、限

る。 技指導研修を市教委主催で検討す 心や楽しさをいかに生徒に伝える ことが多い。攻防も含めて興味関 法を身に付けることが中心になる で習得させることは、学校として た実践交流会等での情報交換や実 かという指導法の工夫が必要であ 基本動作や基本となる技、礼儀作 も困難な状況である。そのため、 体育教員や外部指導者を交え

③実施種目について

ごとに種目を固定している。固定現在は、施設などの関係で学校 の中で学校としての特色を出せて 化することで、地域とのつながり いる。 しかし、固定化するのでは 数年のサイ クルで実施種目

月刊「武道」 2013. 11

123